



(今回のテーマ)は

資金繰りに細心の注意を

お客様とお会いする時の参考情報としてご利用ください

景気は最悪期を脱したと言われてはいますが、大企業と違い中小企業は引き続き厳しい事業環境の中に置かれたままです。この時期、従来以上に資金繰りに細心の注意を払うことが重要です。

1. 最近の状況

大企業の業況は、賃金の抑制、リストラ等による部品等の仕入価格の押え込みによるコストダウン等で回復の兆しが見られるようです。しかし、これは中小企業にとっては販売価格の低下に繋がり、受注量の回復が十分でないことと相俟って粗利益の減少をもたらす原因となっています。また、不動産等の価格下落は担保枠の減少となり、金融機関から支援を得るための障害となるリスクがあります。このような状況を考えますと、収支改善だけでなく、資金繰りについても十分な注意を払うことが大変重要です。

2. 損益と資金繰りの違い

法人相手の取引においては、売買を現金でやり取りすることは稀なことで、掛売り、掛仕入が普通です。このため売上と代金回収、仕入と代金支払に時期のズレが生じます。これが損益と資金繰りに違いの主要な要因です。このことを十分に理解し「資金繰り表」の営業収支・投資収支を計算し、その不足を金融機関から短期借入等(財務収支)で早め早めに調達する、調達の手配をしていくことが企業経営の安全運転のポイントです。このように時間的に余裕を持った資金繰り点検が資金調達だけでなく、損益を含めた経営改善に良い影響をもたらすこととなります。

3. 財務の点検

資金繰り表作成・検討に当たって次の事項等の財務内容点検・確認が望まれます。これは「キャッシュフロー」重視の銀行からの評価を考える場合の参考にもなります。

- 売掛金の中身及び資金化の時期、大口売掛先の業況変化
- 在庫量及び不良在庫の有無
- 現預金残高と緊急時の使用可能額、取引行からの借入可能額
- 毎月の約定返済額の妥当性(設備資金等の収益返済の金額)
- 償却費・引当金の金額は適切か

(参考情報)「JRS経営情報」の中から、次に掲げるコンテンツを参考にしてください。

キャッシュフロー重視の経営と企業評価	(1107-0893)
設備資金と返済スケジュール	(1107-0894)
資金繰り表の考え方・作り方	(1107-0895)
資金繰り対策と黒字倒産の回避	(1107-0891)
損益と資金繰りは違う	(1157-0507)
「資金繰り表」の作り方と見方	(1157-0509)
資金計画のたて方	(1157-0513)

()内は情報番号です

皆様が、お客様から相談を受けた時、「JRS経営情報」をちょっとした参考情報として提供されればお客様から喜ばれることは必定です。

なお、お客様にコンテンツをご提供する場合には、最初のページに「サンプル」と表示してください。また、お探しの情報が不明な場合はご照会ください(0120-89-0240)。